

新居浜市廃棄物減量等推進審議会資料

ごみ処理に関する
松山市との比較について

平成 3 1 年 2 月

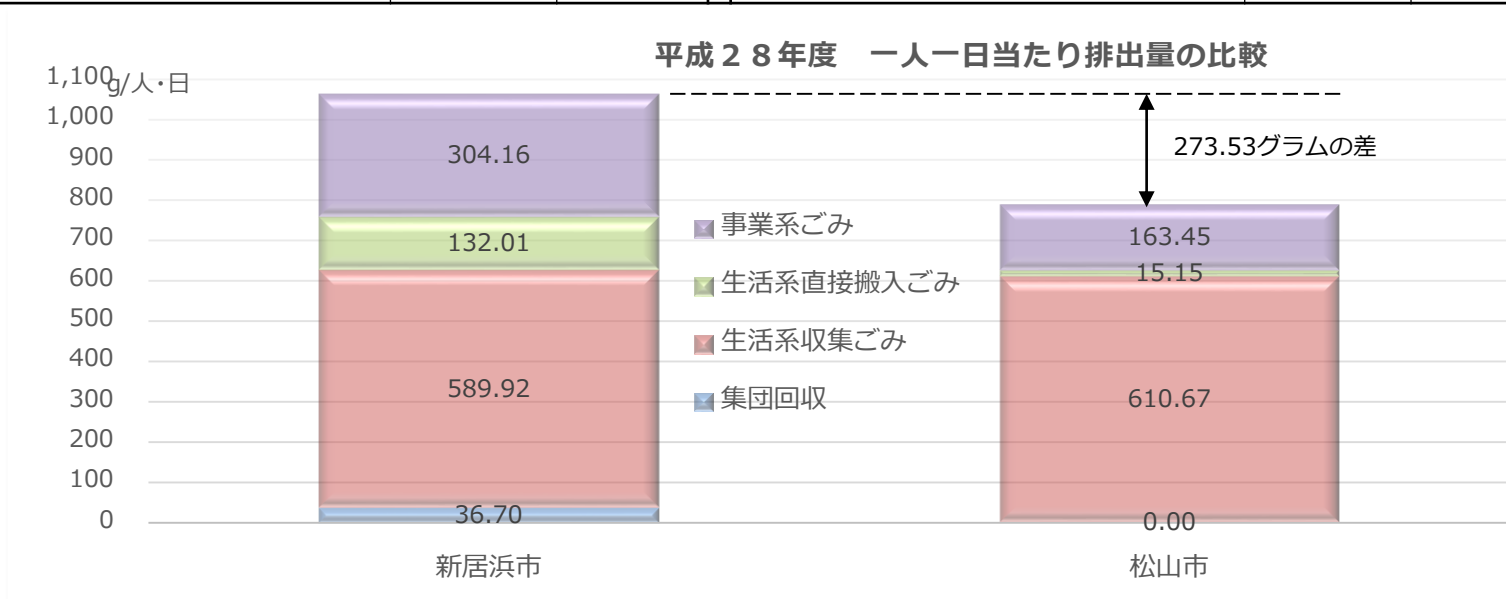
新居浜市環境部
ごみ減量課

資料 新居浜市と松山市 ごみ処理方法の比較

1 搬入形態毎の処理量の比較

処理量は平成28年度の一人一日当たり (g/人・日)

	新居浜市			松山市		
	対象物など	手数料	処理量	対象物など	手数料	処理量
集団回収	地域の資源ごみ集団回収。古紙類・布類・缶類など。補助制度を実施している。	－	36.70g	地域の資源ごみ集団回収。市は推進しているが、補助制度がないため、処理量は不明。	－	不明
生活系収集ごみ	日常生活から排出される生活系ごみを市が収集するもの。大型ごみを含め、10種16分別	全て無料	589.92g	日常生活から排出される生活系のごみを市が収集するもの。粗大ごみを含め、8種11分別	全て無料	610.67g
生活系直接搬入ごみ	一時多量ごみなど収集対象外の生活系ごみの施設への直接搬入。一部公共施設のごみが含まれている。処理困難物以外搬入制限は特にない。	無料	132.01g	一時多量ごみなど収集対象外の生活系ごみの施設への直接搬入。可燃ごみ・粗大ごみ・埋立ごみのみで、資源ごみは搬入禁止。	170円/10kg 30kgまで無料	15.15g
事業系ごみ	一般廃棄物収集運搬業者による収集及び事業者の直接搬入ごみ 一般廃棄物及び一部の産業廃棄物を処理。	100円/10kg	304.16g	一般廃棄物収集運搬業者による収集及び事業者の直接搬入ごみ。可燃系の一般廃棄物のみ。資源化できるものは搬入禁止。	170円/10kg	163.45g
合計			1,062.80g			789.27g



2 ごみ処理概要の比較

区分	項目	新居浜市	松山市	備考
集団回収	制度	奨励金制度あり。	奨励しているが、補助制度はない。	
	H28処理量	一人一日当たり36.70グラム	不明	
収集ごみ	対象	生活系ごみ 一時多量ごみ、危険物、処理困難物、 リサイクル制度対象品を除く	生活系ごみ 一時多量ごみ、危険物、処理困難物、 リサイクル制度対象品を除く	
	分別方法	10種16分別を実施	8種11分別 布類の分別なし びん・缶類は施設選別	びん・缶類の分別方法が異なる
	排出方法	○透明半透明無指定 ○ネット・・・PETボトル、缶類 ○コンテナ・・・びん類、有害ごみ ○裸収集・・・古紙類	○半透明無指定・・・可燃ごみ ○透明無指定・・・可燃ごみ・紙類以外 ○裸収集・・・紙類	松山市は袋収集が基本
	手数料	一般ごみ、大型ごみともに無料	一般ごみ、大型ごみともに無料	
	H28処理量	一人一日当たり589.92グラム	一人一日当たり610.67グラム	
生活系直接搬入 ごみ	対象	生活系ごみ 危険物、処理困難物、リサイクル制度対象品 (パソコンを除く)を除く	生活系ごみ 危険物、処理困難物、リサイクル制度対象品、 資源ごみを除く	松山市は資源ごみやパソコンの持ち込みはできない。
	手数料	無料	10kgあたり170円(30kgまで無料)	
	H28処理量	一人一日当たり132.01グラム	一人一日当たり15.15グラム	
事業系ごみ	対象	一般廃棄物全般 一部産業廃棄物(紙くず、木くず、紙おむつ)	可燃系一般廃棄物(リサイクルできるものは木くずや生ごみも含めて搬入できない)	
	手数料	10kgあたり100円	10kgあたり170円	
	H28処理量	一人一日当たり304.16グラム	一人一日当たり163.45グラム	

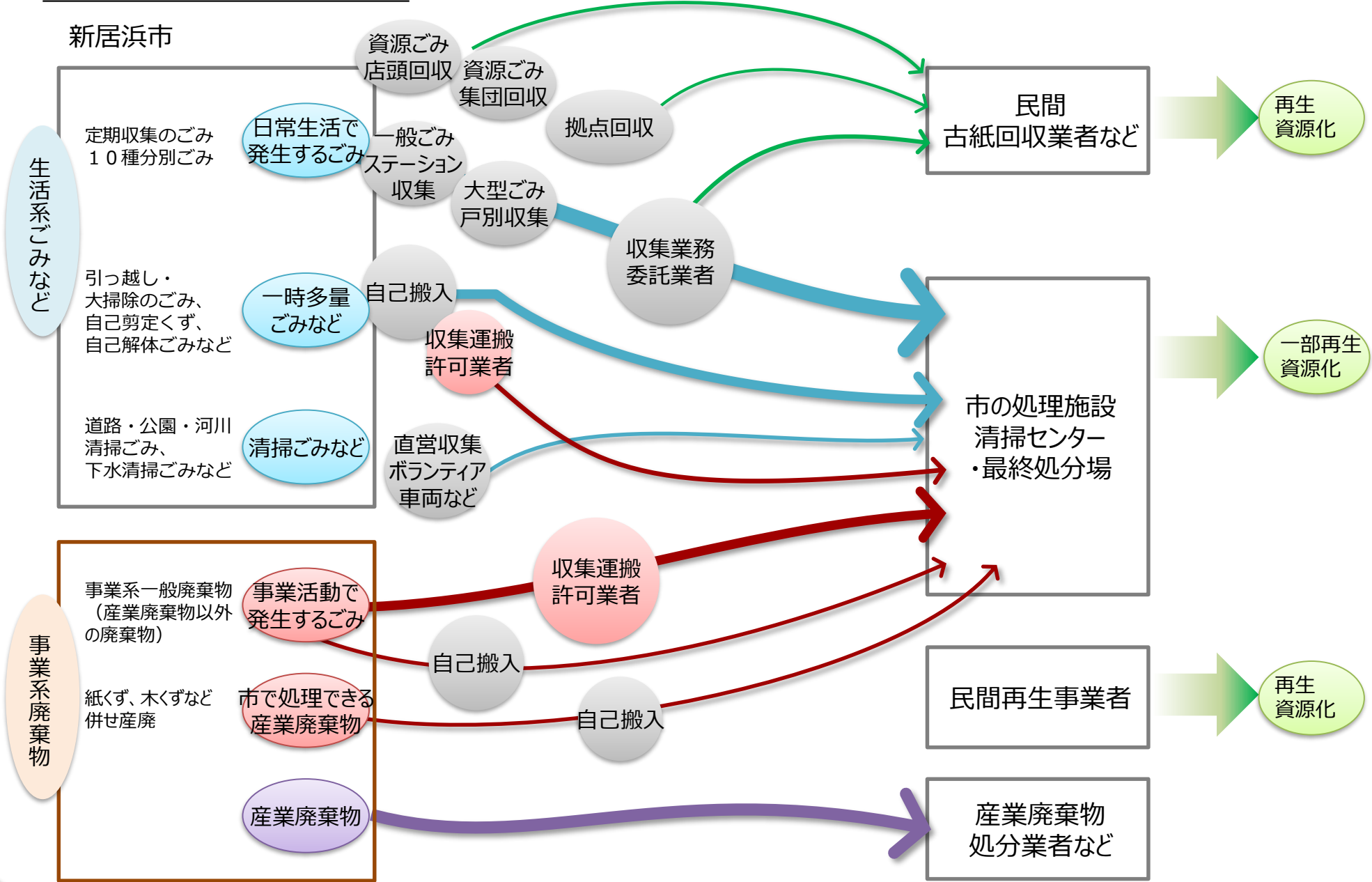
3 収集ごみの分別方法比較

		新居浜市						松山市					
		種別	細別	排出方法	収集頻度	手数料	処理量	種別	細別	排出方法	収集頻度	手数料	処理量
集団回収		古紙、布、缶など		-	-	-	36.70g	補助制度なし		-	-	-	不明
収集ごみ	可燃系	燃やすごみ		半透明袋	週2回	無料	467.21g	可燃ごみ		半透明袋	週2回	無料	458.05g
	資源系	布類		半透明袋	月1回	無料	98.05g	布類					
		ペットボトル		ネット	月2回	無料		ペットボトル		透明袋	月2回	無料	129.24g
		プラ製容器包装		半透明袋	週1回	無料		プラ製容器包装		透明袋	週1回	無料	
		紙類	新聞 段ボール 雑誌・雑がみ 紙パック	紐でたばねる	月2回	無料		紙類	新聞 段ボール 本類・雑がみ 紙パック	紐で束ねる	隔週1回	無料	
					月2回	無料					隔週1回	無料	
					月2回	無料					隔週1回	無料	
					月2回	無料					隔週1回	無料	
	びん類	缶類	ネット	月2回	無料	金物・ガラス類	ガラスびん 缶類	透明袋	隔週1回	無料			
	缶類	透明びん	コンテナ	月2回	無料	鉄・刃物 ガラス製品	鉄・刃物 ガラス製品	隔週1回	無料				
茶系びん		コンテナ											
その他びん		コンテナ											
不燃系	不燃ごみ		半透明袋	月1回	無料	10.78g	埋立ごみ		透明袋	月1回	無料	6.90g	
その他	有害ごみ	電池体温計	コンテナ	年4回	無料	1.04g	水銀ごみ		透明袋	年4回	無料	1.66g	
		蛍光灯	コンテナ										
粗大系	大型ごみ		戸別収集	月1回 10点	無料	12.85g	粗大ごみ		戸別収集	年6回 5点	無料	14.82g	
計		10種16分別					589.92g	8種11分別					610.67g
直接搬入ごみ						無料	132.01g	30kgまで無料			170円/10kg	15.15g	
事業系ごみ						100円/10kg	304.16g					170円/10kg	163.45g

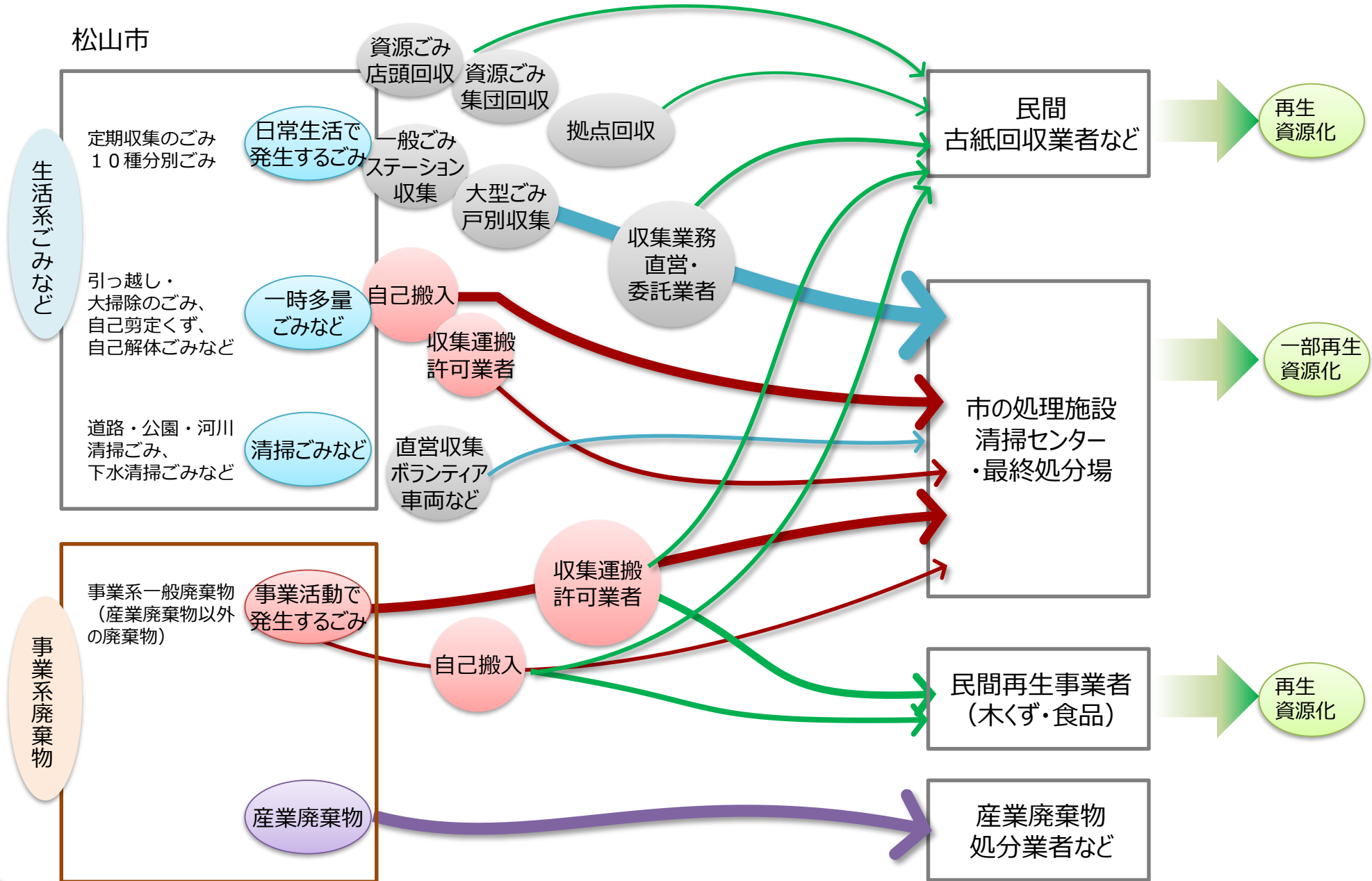
4 主な3R施策の比較

区分	事業	新居浜市	松山市
生活系ごみ	集団回収	奨励金制度あり。	奨励しているが、補助制度はない。
	生ごみたい肥化	コンポスト、電気式生ごみ処理機の補助	コンポスト、電気式生ごみ処理機の補助
		段ボールコンポストの普及、講習会の実施	
	レジ袋削減	大手スーパー全店舗＋一部ドラッグストアと無料配布中止協定	マイバッグ持参を啓発
	リユース制度	不用品伝言板、リサイクルショップ登録制度	施設での粗大ごみの修繕・販売、絵本、おもちゃ
	拠点回収のリサイクル	○衣類、使用済み天ぷら油、小型家電（メダルプロジェクト）	○衣類、使用済み天ぷら油、小型家電（メダルプロジェクト）
	収集ごみリサイクル	容器包装リサイクル制度によるリサイクル（プラ製容器包装、PETボトル、ガラスびん、アルミ缶、スチール缶、段ボール、紙製容器包装）	容器包装リサイクル制度によるリサイクル（プラ製容器包装、PETボトル、ガラスびん、アルミ缶、スチール缶、段ボール、紙製容器包装）
		小型家電リサイクル制度によるリサイクル	小型家電リサイクル制度によるリサイクル
		水銀系廃棄物リサイクル	水銀系廃棄物リサイクル
		古紙リサイクル（新聞、雑誌・雑紙、段ボール、紙パック）	古紙リサイクル（新聞、雑誌・雑紙、段ボール、紙パック）
その他（破碎金属類等）		その他（破碎金属類等）	
生活系直接搬入ごみ	搬入抑制	土石類は年間1トンまで	有料（170円/10kg、30kgまで無料）申し込み制度、資源ごみ搬入禁止
事業系ごみ	多量排出事業者指導	なし	事業系一般廃棄物減量等計画書作成の義務付け
	搬入抑制	有料（100円/10kg）	有料（170円/10kg）
		年間数回の展開検査を実施	展開検査を常時実施
	指定袋	なし	色指定袋
	施設でのリサイクル	アルミ缶、スチール缶等搬入物の資源化	資源ごみの搬入禁止 民間処分業者によるリサイクル（食品循環資源、木くず、再生可能な紙類）
民間リサイクル誘導	－	特定の民間再生事業者へ誘導	

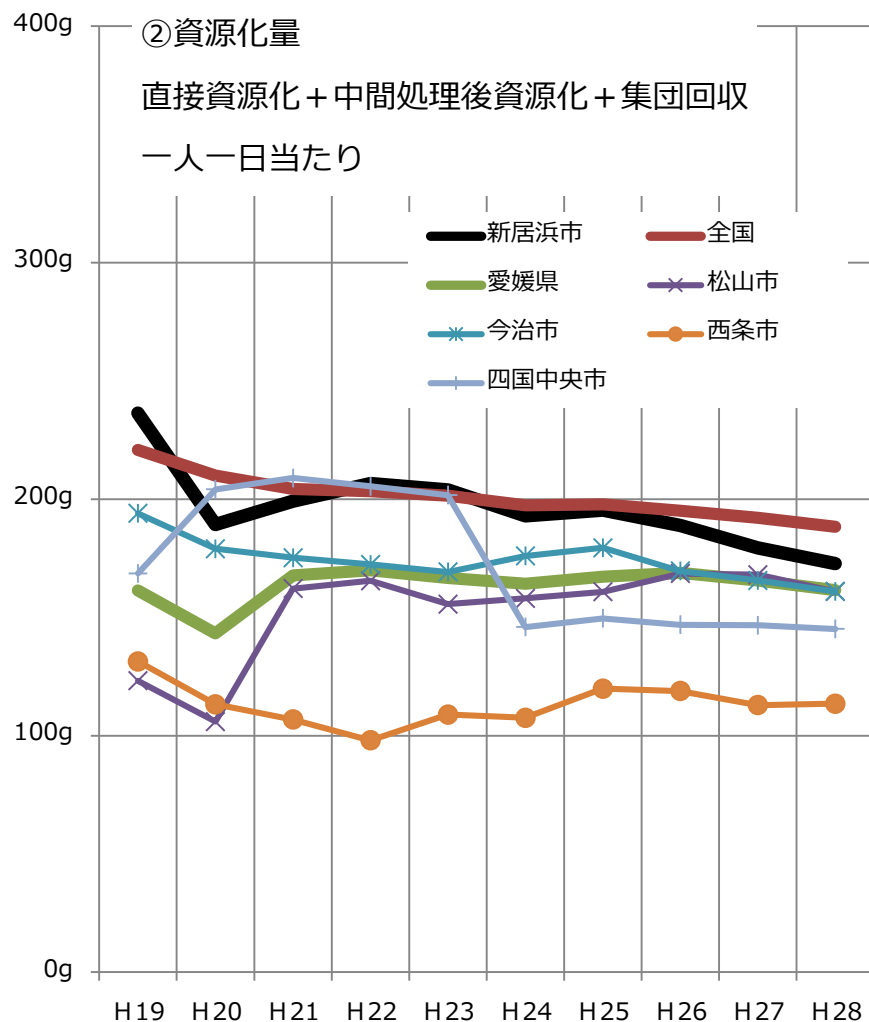
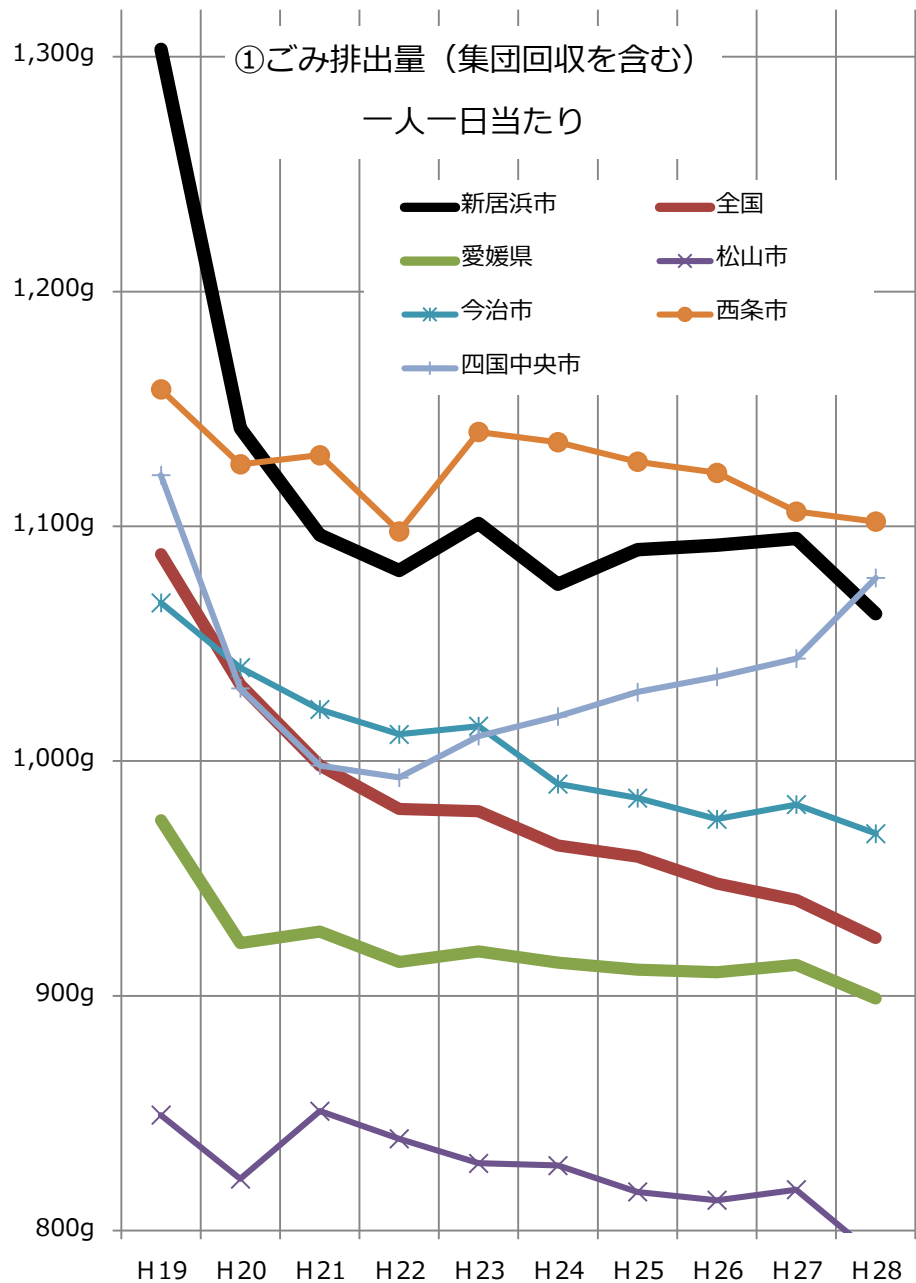
5 ごみ処理基本フローの比較



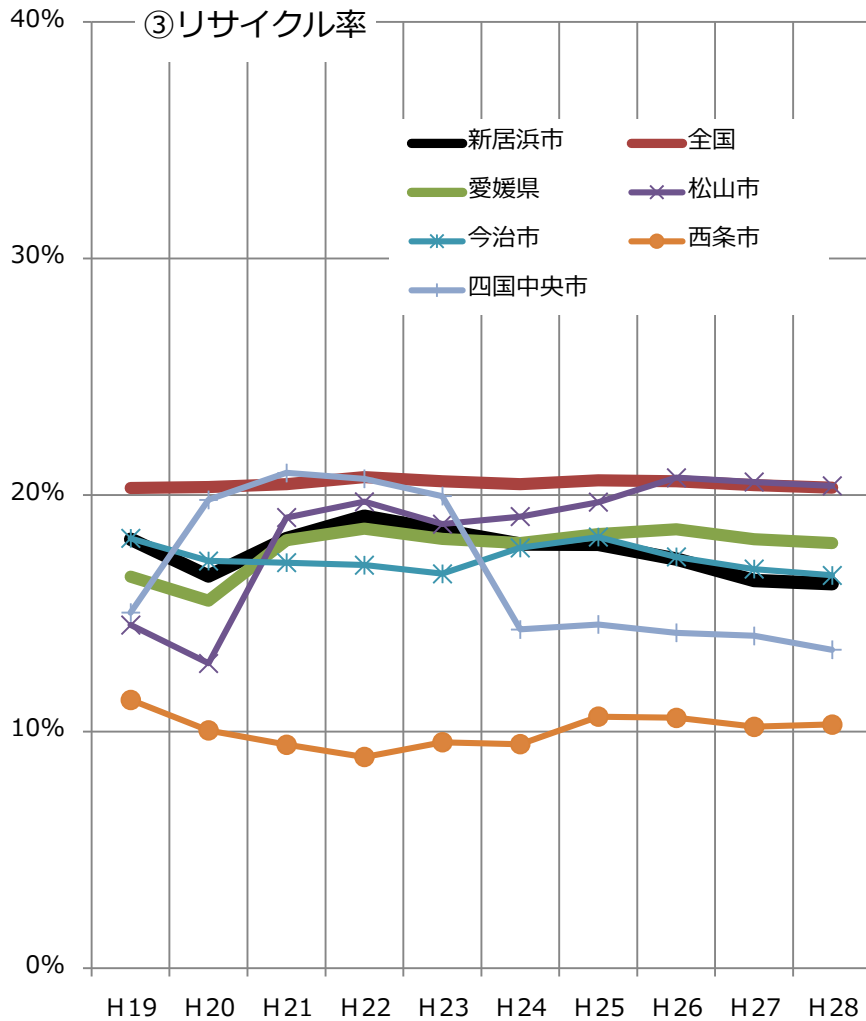
松山市



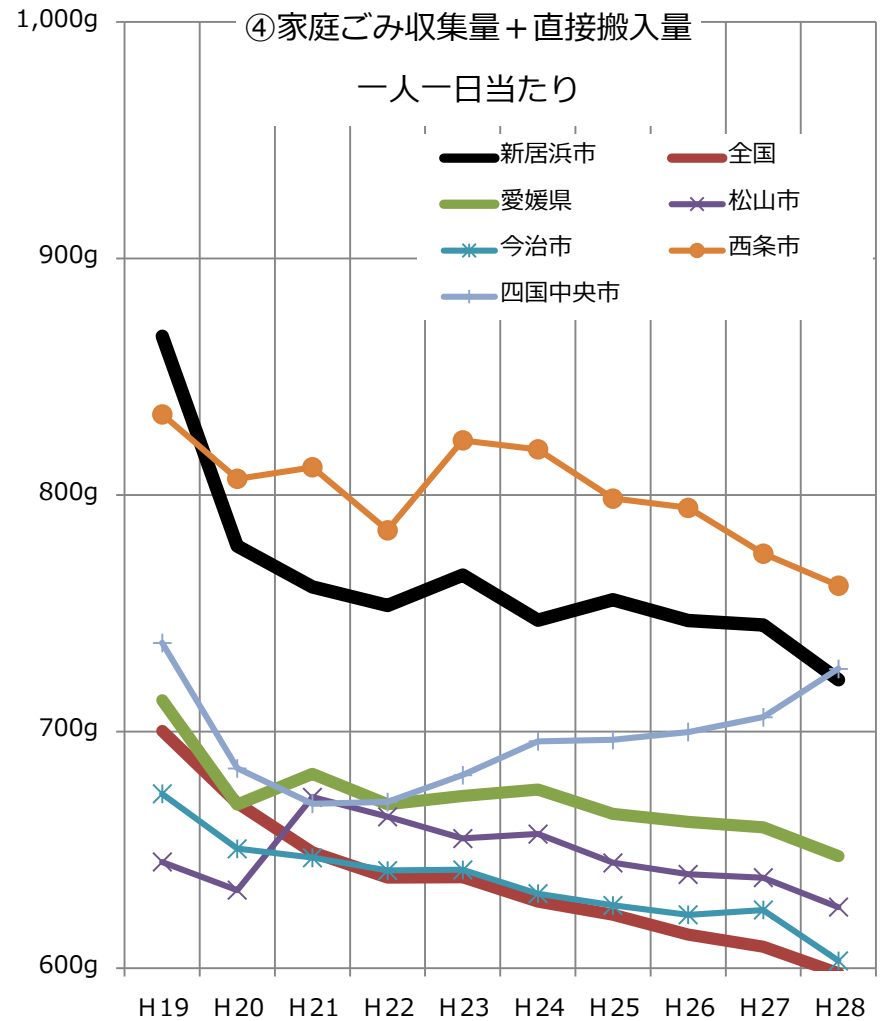
(参考資料) 他市経緯と新居浜市経緯の比較 (H19-28)



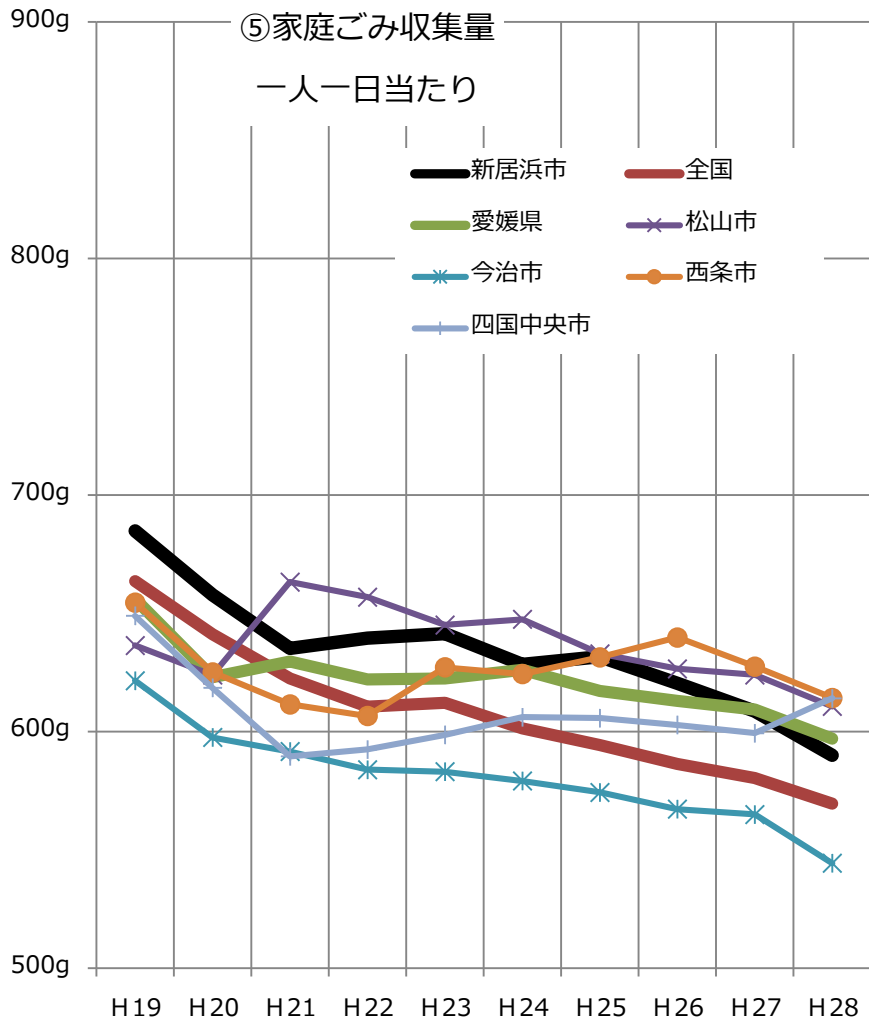
本市のごみ排出量は他市より多いが、10年間で18%減少している。資源化量は減少傾向だが、県内、近隣市と比較すると多い状況である。



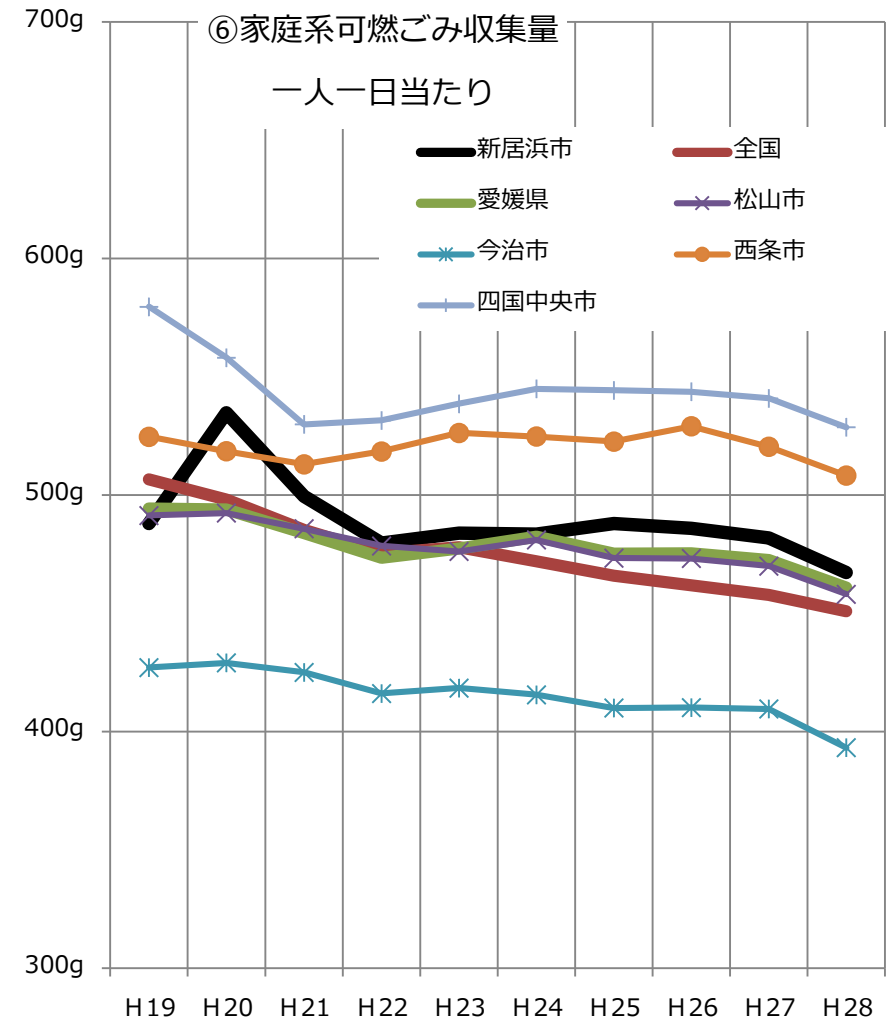
本市の資源化量が比較的多いのかかわらず、リサイクル率が低いのは、資源化できないごみ量が多く搬入されているからと考えられる。



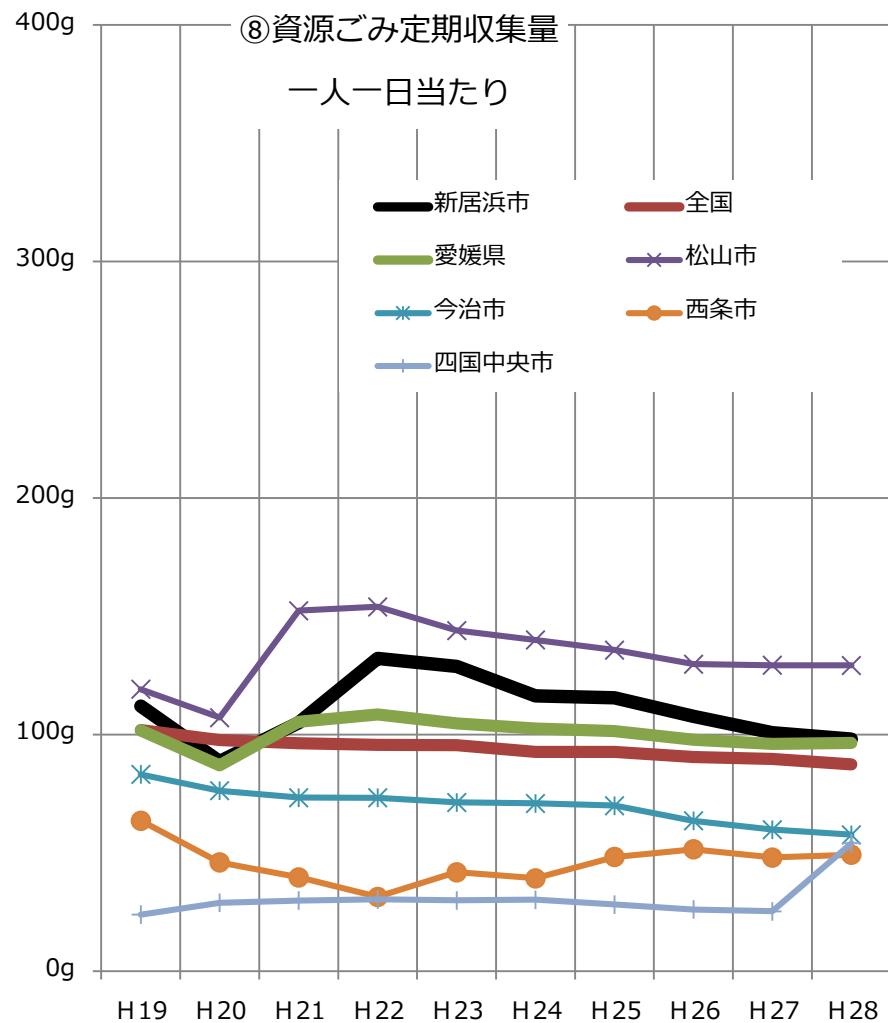
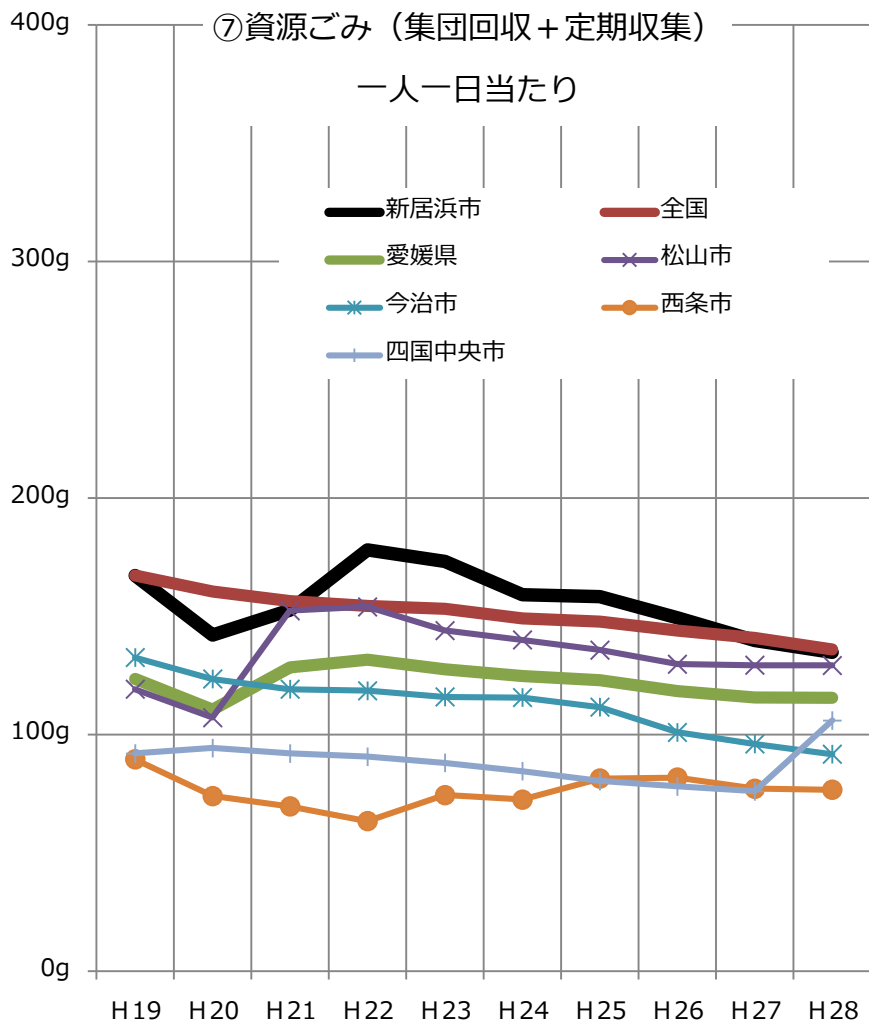
本市の家庭ごみ（収集+直接搬入）は、減少傾向にあるが、他市より多い。



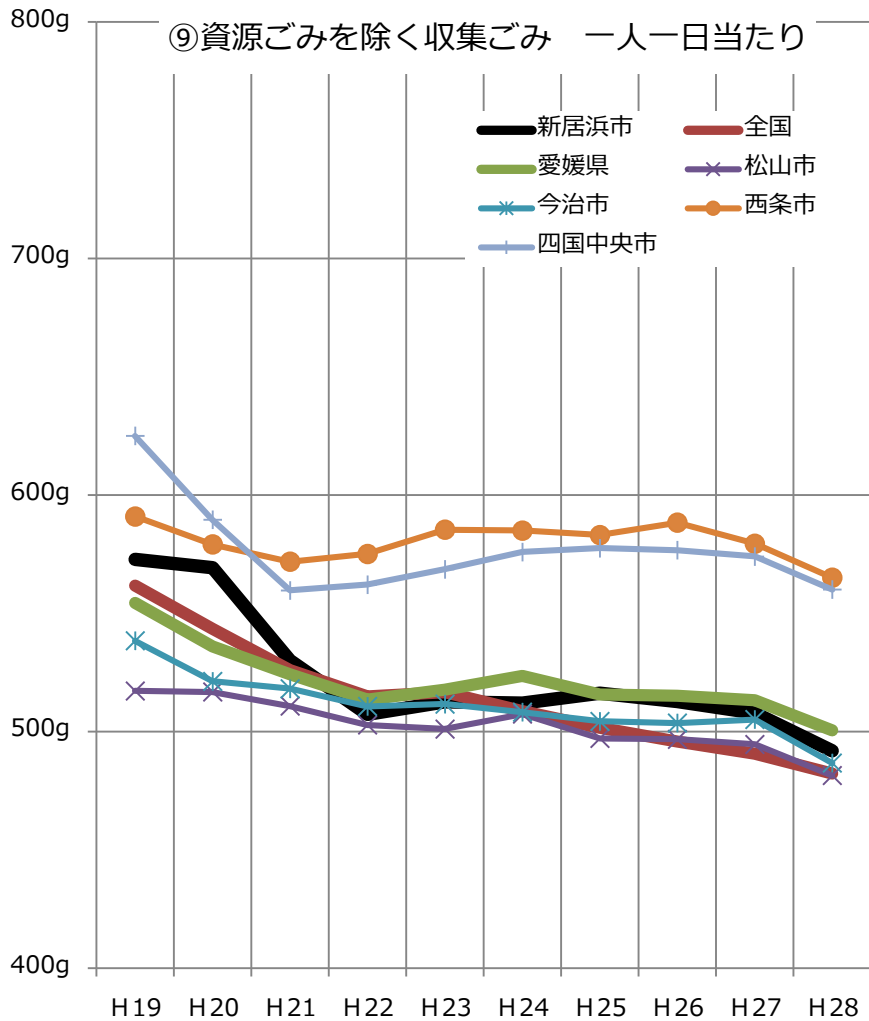
収集ごみのみを見ると、本市は県内平均と同等であり、減少傾向がみられる。



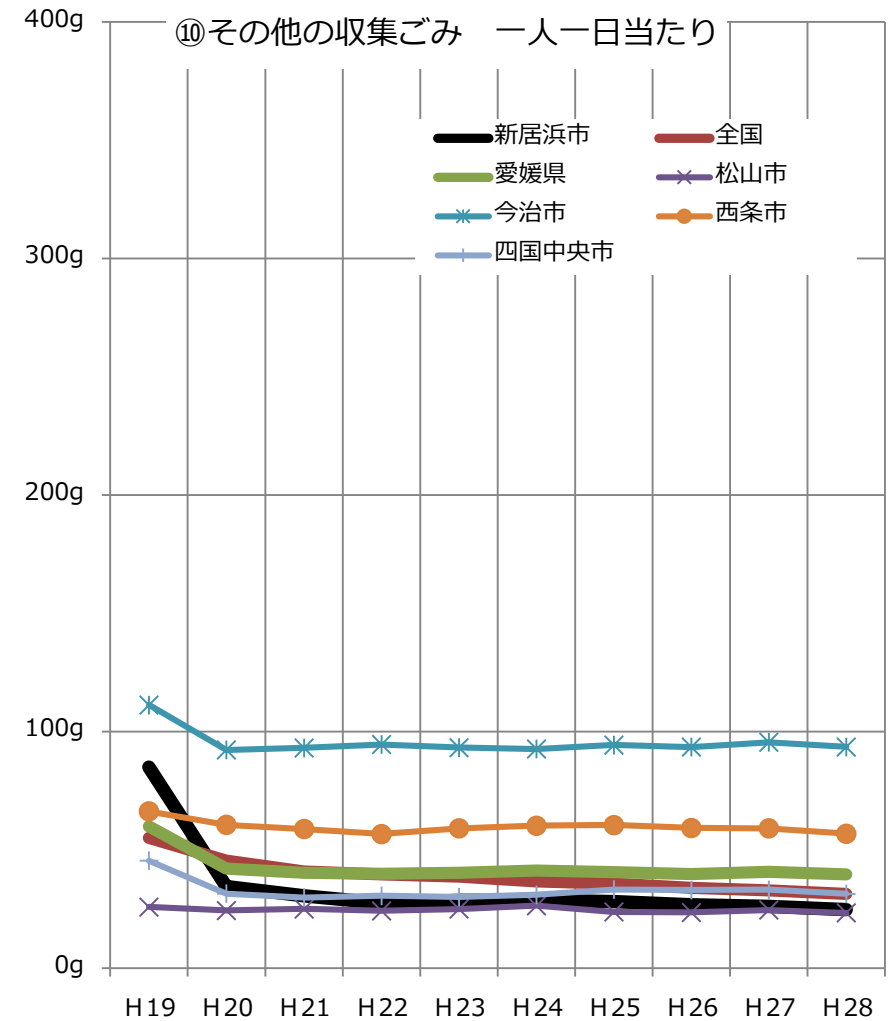
可燃ごみの収取量は、全国や県平均の傾向とあまり変わらない状況である。



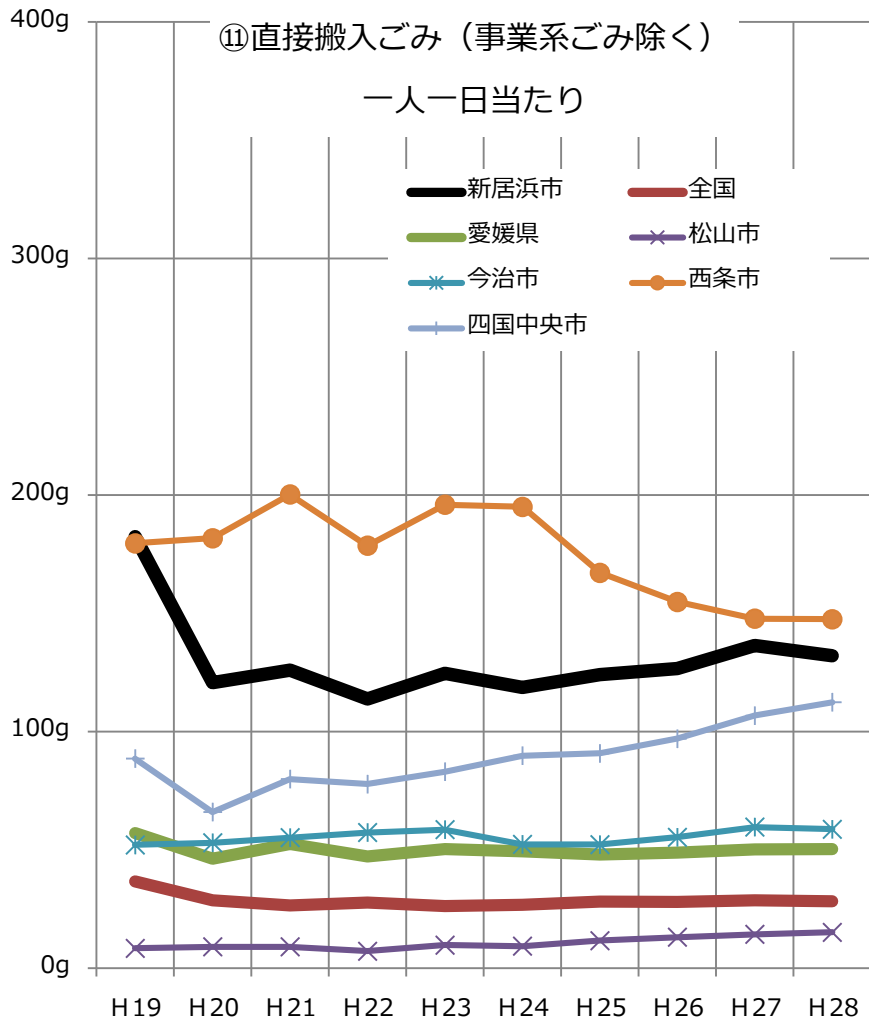
集団回収を含む資源ごみ回収量は、減少傾向にあるが、全国平均と同等で、県平均や近隣市より多い状況である。資源ごみ収集ごみは、松山市（集団回収をしていない）に次いで高い状況である。



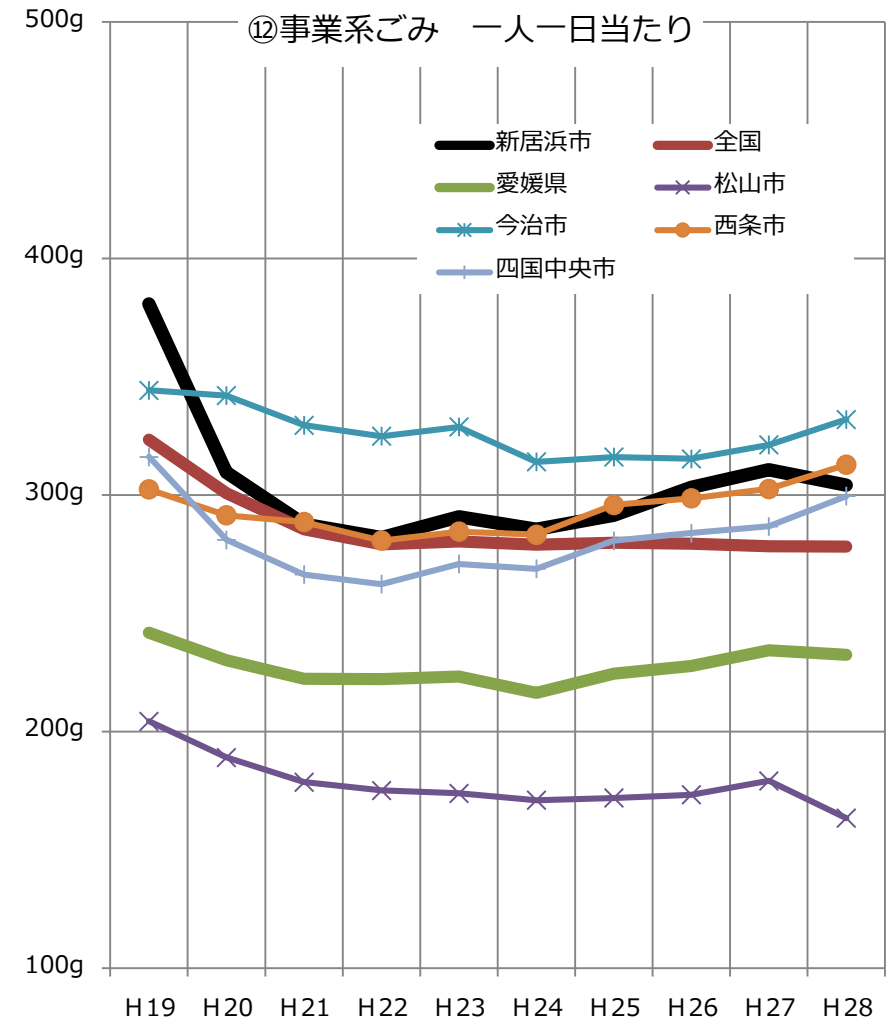
資源ごみを除く家庭系収集ごみは、全国平均よりやや多いが、県内平均と同レベルである。



その他の収集ごみ（粗大ごみ、不燃ごみ、その他）については、本市の収集量は他市より少ない状況である。



家庭系の直接搬入ごみは、全国平均・県平均・近隣市より多く、増加傾向である。



事業系ごみは全国平均よりやや多く、県平均よりかなり多い状況である。